

事項五 日露漁業協約ノ効力持続及改締一件

三七三 六月十七日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮菊池總領事宛

日露漁業協約ノ効力ハ大正八年ノオムスク取
極ニ依リ大正九年以後モ依然持続セラル旨
篤ト先方ニ説明納得セシムル様努力方回訓ノ
件

通一機密送第一二号

本件ニ関シ本年三月三十日附公第六四号ヲ以テ御申越ノ趣
了承當時貴地臨時政府ノ本邦ニ對スル態度極メテ險惡ナル
モノアリタルニ依リ暫ク右ニ對スル回訓ヲ差控ヘ居リタル
処昨今先方ノ態度漸次緩和シ來リタルニヨリ此際當方ノ主
張ヲ開陳シ置ク方可然ト思考セラレ候然ル処前頭貴信ニ依
レハ露國側ニ於テハ千九百七年日露漁業協約ハ千九百二十
年ニ限り其効力ヲ認ムルモ其以後ニ於テハ漁業協約ノ改訂
セラレザル限り漁区ヲ競売スルニ當リ同協約ニ規定スル順
序ノミニヨリ之ヲ行ヒ其他ノ事項ニ付テハ露國側ニ於テ任
意ニ之ヲ決定セントスル趣旨ナルヤニ思考セラレ候處若シ

果シテ然リトセハ本年三月八日発當方宛貴電第八四号ニ
「ゼムストオ」臨時政府ハ漁業權ニ関スル一切ノ問題ヲ只管
漁業協約ニ準拠シテ解決スルヲ念トスルニ依リ日本側モ然
アランコトヲ希望スル旨ノ回答ニ接シ云々トアルニ徵シ甚
タ其意ヲ得ザル所ニ有之殊ニ其理由ヲ批准シタル國際文書
ノ慣用ノ形式ヲ具ヘザルモノナルノ点ニ取ルニ至テハ先方
ノ誠意ヲモ疑ハザルヲ得ザル次第ニ有之候元来客年中「オ
ムスク」政府トノ間ニ締結シタル取極ハ正当政府ノ樹立ニ
至ル迄ノ過渡的且変則ノ取極ニシテ一般條約締結ノ手続ニ
依ルコトヲ得ザリシハ露國正当政府ノ存在セザルニ出デタ
ル已ムラ得ザル措置ナリシハ先方ニ於テモ夙ニ了悉シ居ル
筈ニ有之候然ルニモ拘ハラズ臨時政府カ之ヲ理由トシテ前
記客年ノ取極ヲ否認セントスルハ帝國臣民ノ漁業權ノ享有
ヲ許サザラントスルノ惡意ニ出デタルモノト想像スルノ外
ナキ次第ニ有之候就テハ此際前記ノ趣旨ヲ申入ルルト同時
ニ本年二月十九日發貴官宛往電第二二号ノ趣旨ヲ反覆御説

明ノ上先方ヲシテ我方ノ主張ヲ篤ト納得セシムル様十分御
尽力相成度次ニ前頭貴信ニ依レハ五年滿期漁区ノ貸下期間
ニ付テモ亦先方ハ千九百二十年度競落漁区ニ付テノミ當方
ノ主張ヲ容レ明年以後ノ五年滿期漁区ハ之ヲ一年漁区トシ
テ発表セントスル趣ニ有之候處五年滿期漁区ヲ一年漁区ト
シテ発表スルノ理由ナキハ客年十月八日發貴官宛往電第一
三四号ノ通ナルノミナラズ前記往電第二二号ノ次第モアル
ニ付是亦可然御抗議相成度此段申進候也

三七四 七月九日 神野大藏次官ヨリ
埴原外務次官宛

オムスク政府ノ事實上崩壊セル今日モ日露漁
業協約ノ効力ニ付從来ノ見解ニテ差支ナキヤ

問合ノ件

蔵第八六〇一号

大正九年七月九日

大藏次官 神野勝之助(印)

外務次官 塩原 正直殿

日露漁業協約ノ効力持続ノ件ニ關シテハ客年九月十五日附
通一機密送第三六号ヲ以テ御通知ノ次第有之候處帝國政

五 日露漁業協約ノ効力持続及改締一件 三七四 三七五

本件ニ關シ本月九日附蔵第八六〇一号ヲ以テ御申越ノ趣了
承元來帝國政府ガ「オムスク」政府ト漁業權ニ関スル取極
ヲ為シタルハ當時漁業協約更新ノ時期切迫シタルニモ不拘
露國ニ未タ統一的政府ナカリシヲ以テ事實上西比利地方ニ
政令ヲ布キ居タル同政府ヲ相手方トシタルモノニシテ此種
取極ノ効力ガ露國內部ノ政治的動搖ニヨリ何等ノ影響ヲ受
クヘキモノニ非ザルニ付テハ同政府ノ崩壊セル今日ニ於テ
モ依然効力ヲ有スルモノト御承知相成度從テ其結果漁業協
約第十二条ノ輸入税免除ニ關スル規定モ亦其効力ヲ存続ス
ルモノト御了解相成度此段回答申進候也

五 日露漁業協約ノ効力持続及改締一件 三七四 三七五

五 日露漁業協約ノ効力持続及改締一件 三七六 三七七

三七六 九月三日 在浦潮菊池總領事ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

日露漁業協約ノ効力持続及大正九年以後ノ五

年滿期漁区ノ取扱方ニ関シ臨時政府漁撈業協

議會長談話ノ件

第二八二号

通一機密送第一二号ノ趣旨ハ當時書面ヲ以テ臨時政府ニ申入レ爾來當局ニ対シ屢々回答ヲ督促シ居リタルガ九月三日

漁撈業協議會長「パンテレイエフ」ニ会見シ本件成行ヲ聞

キ糺シタル際同氏ハ本件ニ關シ數回委員会ヲ開キ審査ノ結果二日協議會ニ附議シ氏ハ漁業協約及附屬議定書中五年ノ貸下期限ノ終了シタル漁区ヲ再度五年期限ヲ以テ貸下グルヲ許サザル規定無ク而シテ短期漁区ハ初メテ開カルル漁区ニ限ルヲ以テ之ニ関スル規定ヲ五年ノ貸下期限ノ終了シタル漁区ニ適用スルヲ得ザルハ自明ノ理ナル旨ヲ報告シタル處協議會ニ於テモ右報告通り可決シタレバ右決議ハ参考書類トトモニ來週末迄ニ農務部ニ進達スベク同部ヨリハ両三日中ニ外務部ニ回付スルコトナルベシ而シテ前記決議ノ主意ガ上局ニ於テ採用セラルルヤハ保証ノ限リニアラザル旨

四四六

ヲ答ヘタル後貴信ノ趣旨ヲ以テ申入レタル前記公文ガ峻烈ニ過ギタルハ遺憾トスル旨ヲ附言セリ尙前記決議ガ上局ニ回付次第至急円満解決方ヲ當路ニ要望スル考ナリ右不取敢

三七七 九月二十三日 在浦潮菊池總領事ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

日露漁業協約ノ効力持続及五年滿期漁区ノ取扱問題ニ關シ尽力方農務部長ニ申入レタル件

第二九〇号

往電第二八二号ニ関シ

爾來「パンテレイエフ」ニ対シテハ農務部ニ書類ノ回付方ヲ督促シ同部長「ヤクーシエフ」トハ予メ打合セノ上二十二日会見シ本件至急解決ノ為尽力ヲ申入レタル處氏ハ關係書類漁撈業協議會ヨリ未ダ回付ナク之ヲ承知セザルニ付意見ヲ決定シ難キモ手許ニアル書類ヲ一瞥シテ感得シタル自己一個ノ意見ニ依レハ自動的ニ効力繼續シ居ル漁業協約ノ精神ニ顧ミ漁区ノ貸下期限ハ短縮スベキニアラズ少クモ從前通リノ期間ニ定ムルヲ妥当ナル如ク思考ス兎ニ角關係書類ハ本日中ニ回付アルヘキ筈ニ付閲讀ノ上急速意見ヲ決定シ其筋へ移送スル様務ムヘキ旨ヲ答ヘタリ

三七八 十月二十日 在浦潮菊池總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

五年滿期ノ漁区取扱問題ニ關シ外交部代理ハ

成ルベク日本側ノ要望ニ副ヒタキ旨談話ノ件

附 記 大正八年三月二十三日附小島露領水產組合組長

ヨリ田中通商局長宛書信發第三八三号

漁業協約改締ニ關シ希望事項提示ノ件

第三一二号

往電第二九〇号ニ關シ

其後外交部ニ対シ決答督促中前任外交部長辞任以來部長會議々長「ムナルツク」之ヲ代理セルニ付二十日同氏ニ会見

ノ上重ネテ督促シタル處氏ハ約三週間前本問ヲ部長會議ニ於テ審議シタルニ若干ノ事項ニ關シ未タ調査不充分ナルコトヲ認メ當局ヲシテ再調査ヲナサシムルコトトナリ居レリ其ノ事項カ如何ナルモノナリシカハ只今記憶セザルモ会議ニ於ケル大体ノ意嚮ハ理論ニ於テハ漁業協約ノ効力持続ハ單純ナル繼續ニアラズシテ更新ト解シ従ッテ條約ノ成文ニ依リ五年期限終了ノ漁区ハ新漁区トシテ一ヶ年ノ期限ヲ以

外務省通商局長 田中 都吉殿

拝啓陳者漁業協約更新ニ當リ當組合ノ改正希望事項討議スル為大正五年以来度々漁業協約更新準備委員会ヲ開催致シ種々ニ研究ノ結果今回別紙ノ通最終ノ意見取纏メ候間何卒希望貫徹候様御配慮ヲ得度要望事項相添右及御依頼候

敬具

追テ御参考ノ為メ左記書類添付致候間御高覽相成度

五 日露漁業協約ノ効力持続及改締一件 三七八

四四七

一 大正五年十二月 協定三十二ヶ条
一 大正六年五月 協定七ヶ条
一 同 同二十六ヶ条

(以上)

(別紙)

漁業協約改訂ニ関スル要望事項

第一 借区權認定ニ関スル件

第一条 現在租借漁区ハ現在ノ借区料ヲ以テ将来ノ借区料ト定メ現借区者ニ借区權ヲ認定スルコト

而シテ其期間ハ六ヶ年トシ期限経過後ハ同一借区料ヲ以テ更フニ六ヶ年借区ヲ継続スルモノトス

第二条 漁区租借者ニ於テ止ムヲ得サル事情ニ依リ其営業ヲ継続スルコト能ハサルトキハ既納ノ保証金ヲ提供シ借

区契約ヲ解除スルコトヲ得ルモノトス解除シタル漁区ハ次年度ノ漁区表ニ発表スルコト

第三条 新規漁区ニ対シテハ最低価格ヲ表示シロ頭競壳ノ方法ニ依リ競壳ニ付スルコト

第四条 競落者ナキ漁区ハ借区料ノ○割ヲ減シテ一週間内ニ再競壳ニ付スルコト

トス
鱈、蟹及雜魚ニアリテハ前項ノ外ニ別ニ定ムル方法ニ依リテ漁場開設アリ度事

参照 別ニ定ムル方法左ノ如シ
蟹及鱈漁区開設ニ閑スル件（但シ大正七年十一月十九日ラウロフ總裁ニ口頭ヲ以テ開陳セルモノ）
(一)、漁区ハ堪察加州、沿海州、薩哈哩州ニ亘リ之レヲ開設セラレタキコト

(二)、漁区貸下方法ハ從来ノ漁区貸下方方法ニ準スルコト

但シ漁区ノ競壳ニ付テハ其評価ヲ予告セラレタキコト

(三)、漁区ハ陸岸地区ノ面積海岸延長百五十「サージェン」幅員四十「サージェン」トシ水域ニ付テハ特ニ其区域ヲ限定セス入会漁業ヲ為スモノトス

但シ既設及将来開設セラルル鮭鱈又ハ鯨漁区ノ左右及沖合二浬以内茲該漁区ニ立入り漁業ヲ為スコトヲ得サルモノトセラレタキコト
(四)、漁業期間ハ之レヲ限定セザルコト但シ既設鮭、鱈又ハ鯨漁区ノ前面三浬及其左右三浬以内ニ於テスル蟹漁業ハ七月十五日ヲ以テ漁業終了期日トセラレタキコト

五 日露漁業協約ノ効力持続及改締一件 三七八

第五条 一旦競落シタル漁区ハ第一条ノ例ニ準シ其権利ヲケル漁業權ノ特別条件ハ之ヲ撤去セラレタキ事

ニ包含スルモノト認メ一般漁場ト同一ノ取扱ヲ受ケタキ事

追テ右第一、第二要望ヲ提出致候ニ付テハ大正六年五月提出致候希望事項中ノ第一ハ自然撤回可致尚今回ノ協議ニ依リ曩ニ提出致候要望事項中修正又ハ追加シタルモノハ左記ノ通ニ有之候

記

一、「從來ノ租借漁区ニ於テ蟹、鱈及雜魚ノ漁獲並製造ヲ許可スルコト」（大正五年十一月要望事項第六）ハ左ノ通修正ス

從來ノ租借漁区ニ於テモ蟹、鱈及雜魚ノ漁獲並製造ヲ許可スルコト、但シ蟹漁業ニアリテハ漁区前面沖合二浬以上ノ海上ニ於テ漁獲スルコトトシ其期限ハ七月十五日迄

(一)、「河川及入江ハ土民、地方民、移住民（労働者ヲ使用スルコトナク自ラ漁業ニ從事スル者及家族）ニ貸下タル部分ノ外ハ露國臣民ト雖漁業ヲ禁止スルコト」（大正五年十一月要望事項第一八）中「及入江」ノ三字ヲ削除シ「但シ黒竜江ハ之ヲ例外トス」ヲ加ヘラレタキコト
三、「露國政府ハ漁業權ニ関係アル法律命令及規則（附則ヲ含ム）ノ制定及変更ニ關シテハ一年前ニ日本政府ヘ通牒スルコト」（大正五年十一月要望事項第一九）ハ左ノ通修正ス

露國政府ハ漁業權ニ関係アル法律命令及規則（附則ヲ含ム）ノ制定及変更ニ關シテハ日本政府ノ同意ヲ経ル事業ハ「鯨漁期ヲ六月二十日迄延長スルコト」（大正五年十二月同六五年五月同右）ハ左ノ通修正

五 日露漁業協約ノ効力持続及改締一件 三七八

四五〇

要望事項第二十七)ハ左ノ通リ修正ス
同右 第二十七)ハ左ノ通長スルコト
鯨漁期ヲ七月十日迄延長スルコト

五、「漁夫ノ旅券ハ一漁区毎ニ一通トシ漁夫全部ニ対スル
查照料ハ一括シテ納入スルコト」(大正五年十二月要望事項
同年六月同右)

第二十九)ハ左ノ通修正ス

漁夫ノ旅券ハ之ヲ廢スルコト

六、「借区漁場ニ於テ財産保管ノタメ必要ナル員数ノ越年
者ヲ許スコト」(大正五年十一月要望事項第二十六)
ハ左ノ通年者ヲ許スコト
リ修正ス

借区漁場ニ於テ財産保管ノ為及漁業上必要ナル員数ノ越
年者ヲ許スコト

七、漁区間ニ漁期間ニ限リ私設電信電話ノ施設ヲ許可セラ
レタキコト(今回新ニ加ヘタルモノ)

(以上)

(参考)(一)(二)(三)

大正五年十二月要望事項三十二個条

漁業協約改定ニ関スル要望事項(其一)

一、(次)

公課ヲ徵集セサル事

一五、漁業規則違反者ニ対シ体刑ノ処分ヲナササル事

一六、漁業協約第八条第式項ノ漁業用必要ナル物件ハ直接
間接ナルトコ間ハス何等ノ制限ヲ加ヘサル事

一七、借区料金ノ外何等ノ公課税金ヲ課セサル事

一八、河川及入江ハ土民地方民及移住民(労働者ヲ使用ス
ルコトナク自ラ漁業ニ從事スル者及其家族)ニ貸下タル
部分ノ外ハ露国臣民ト雖漁業ヲ禁止スルコト

一九、露国政府ハ漁業権ニ關係アル法律命令及規則(附則
ヲ含ム)制定及変更ニ關シテハ一年前ニ日本政府ヘ通牒
スルコト

二〇、營業上必要ナル木材ハ附近ノ山林ヨリ伐採ヲ許可ス
ルコト

二一、鯨漁期ヲ六月三十日迄延期スルコト

二二、漁区名義書換ヲ制限セサルコト

二三、魚類ノ養殖方法、魚類及水產物保護ニ関スル取締規
則ハ両国政府ニ於テ適宜協商スルコト

二四、漁区發表ト競売トノ期間ハ一ヶ月トシ前年十二月中
ル際ハ一旦日本へ輸入サレタルモノト雖閑稅其他一切ノ

等ノ制限ヲ受クル事ナク各漁区間ノ交通ヲ許可スル事
一二、建網ノ構造ヲ制限セサル事

一三、掉袋ノ使用機械力ノ應用ヲ制限若ハ禁止セサル事

一四、船籍ノ如何ヲ問ハス露國漁場生産物ヲ露國ニ輸入ス
ル際ハ一旦日本へ輸入サレタルモノト雖閑稅其他一切ノ

五 日露漁業協約ノ効力持続及改締一件 三七八

二、漁区貸下期間ハ拾貳ヶ年ヲ以テ一期トスル事
天変地異其他避ク可ラサル事由ニ依リ漁業ヲ継続スル能
ハサル場合ニ於テハ契約解除ヲナスノ余地ヲ保留スヘク
外務當局ニ於テ相當考慮ヲ加ヘラレタキ事

三、漁区ノ競売ハ漁獲物製品一布度ニ付五哥ヲ以テ最低価
格トシ一布度ニ対スル最高入札者ヲ以テ其漁区ノ権利者
ト定ム

四、借区料ハ當該年度ノ漁獲高ヲ基礎トシテ算出シ毎年之
ヲ納付スル事

五、紅魚漁区ニ於テモ雜魚類及魚類分解ノ際生シタル一切
ノ廃棄物ヲ以テ肥料ノ製造ヲナシ得ル事

六、從来ノ租借漁区ニ於テ蟹、鱈及雜魚ノ漁獲竝製造ヲモ
許可スル事

七、漁業協約第式条第參項ヲ左ノ通り改正セラレタキ事

特別ノ免許状ヲ備フル船舶ニ在ル日本國臣民ハ鱈、蟹、
海鼠其他特定漁区内ニ於テ捕獲スル事能ハサル一切ノ魚
類及水產物ノ漁獲ニ從事シ是レカ製造加工ニ必要ナル地
区ノ貸下ヲ得竝トロール漁業及捕鯨漁業ニ要スル根拠地
ノ貸下ヲ得ル事

五 日露漁業協約ノ効力持続及改締一件 三七八

四五二

一、漁業協約期間ヲ拾貳ヶ年ヲ一分シ漁区貸下期間ハ各六

ケ年ヲ以テ一期トスル事

但シ協約年限終了後ト雖其ノ以前ニ契約シタル長期漁区ニ対シテハ其ノ契約年限ノ終了迄營業ヲ許可スルコト

尚天変地異其他避クヘカラサル事由ニ依リ漁業ヲ繼續スルコト能ハサル場合ニ於テハ契約解除ヲナス余地ヲ保留スヘク相当考慮ヲ加ヘラレタキ事

理由、從来ノ如ク租借期間ノ切レ目多キ時ハ競争ノ結果巨額ノ租借料ヲ仕払フニ非サレハ租借スルコト能ハス故ニ

租借料騰貴シテ底止スル所ヲ知ラサル恐アリ且ツ又租借期間短期ナルトキハ巨額ノ資本ヲ固定ン安ンシテ業務スルコト困難ナル事情アルニヨル尚ホ從来ハ一旦契約シタル租借漁区ニ対シテハ如何ナル事由アルモ其契約解除ヲ許ササルタメ實際不經營漁区ニシテ租借料ヲ仕払ヘリ是等ノ不便ヲ除去セラレタキ事

二、漁業協約改定ニ關スル要望事項（其一）

三一、競売ニ日本領事ヲ立会ハシムルコト

（以上）

大正六年五月要望事項七個条

（一）

漁業協約改定ニ關スル要望事項（其二）

（二）

（三）

（四）

（五）

（六）

（七）

（八）

（九）

（十）

（十一）

（十二）

（十三）

（十四）

（十五）

（十六）

（十七）

（十八）

（十九）

（二十）

（二十一）

（二十二）

（二十三）

（二十四）

（二十五）

（二十六）

（二十七）

（二十八）

（二十九）

（三十）

（三十一）

（三十二）

（三十三）

（三十四）

（三十五）

（三十六）

（三十七）

（三十八）

（三十九）

（四十）

（四十一）

（四十二）

（四十三）

（四十四）

（四十五）

（四十六）

（四十七）

（四十八）

（四十九）

（五十）

（五十一）

（五十二）

（五十三）

（五十四）

（五十五）

（五十六）

（五十七）

（五十八）

（五十九）

（六十）

（六十一）

（六十二）

（六十三）

（六十四）

（六十五）

（六十六）

（六十七）

（六十八）

（六十九）

（七十）

（七十一）

（七十二）

（七十三）

（七十四）

（七十五）

（七十六）

（七十七）

（七十八）

（七十九）

（八十）

（八十一）

（八十二）

（八十三）

（八十四）

（八十五）

（八十六）

（八十七）

（八十八）

（八十九）

（九十）

（九十一）

（九十二）

（九十三）

（九十四）

（九十五）

（九十六）

（九十七）

（九十八）

（九十九）

（一百）

（一百一）

（一百二）

（一百三）

（一百四）

（一百五）

（一百六）

（一百七）

（一百八）

（一百九）

（一百十）

（一百十一）

（一百十二）

（一百十三）

（一百十四）

（一百十五）

（一百十六）

（一百十七）

（一百十八）

（一百十九）

（一百二十）

（一百二十一）

（一百二十二）

（一百二十三）

（一百二十四）

（一百二十五）

（一百二十六）

（一百二十七）

（一百二十八）

（一百二十九）

（一百三十）

（一百三十一）

（一百三十二）

（一百三十三）

（一百三十四）

（一百三十五）

（一百三十六）

（一百三十七）

（一百三十八）

（一百三十九）

（一百四十）

（一百四十一）

（一百四十二）

（一百四十三）

（一百四十四）

（一百四十五）

（一百四十六）

（一百四十七）

（一百四十八）

（一百四十九）

（一百五十）

（一百五十一）

（一百五十二）

（一百五十三）

（一百五十四）

（一百五十五）

（一百五十六）

（一百五十七）

（一百五十八）

（一百五十九）

（一百六十）

（一百六十一）

（一百六十二）

（一百六十三）

（一百六十四）

（一百六十五）

（一百六十六）

（一百六十七）

（一百六十八）

（一百六十九）

（一百七十）

（一百七十一）

（一百七十二）

（一百七十三）

（一百七十四）

（一百七十五）

（一百七十六）

（一百七十七）

（一百七十八）

（一百七十九）

（一百八十）

（一百八十一）

（一百八十二）

（一百八十三）

（一百八十四）

（一百八十五）

（一百八十六）

（一百八十七）

（一百八十八）

（一百八十九）

（一百九十）

（一百二十）

（一百二十一）

（一百二十二）

（一百二十三）

（一百二十四）

（一百二十五）

（一百二十六）

（一百二十七）

（一百二十八）

（一百二十九）

（一百三十）

（一百三十一）

（一百三十二）

（一百三十三）

（一百三十四）

（一百三十五）

（一百三十六）

（一百三十七）

（一百三十八）

（一百三十九）

（一百四十）

（一百四十一）

（一百四十二）

（一百四十三）

（一百四十四）

（一百四十五）

（一百四十六）

（一百四十七）

（一百四十八）

（一百四十九）

（一百五十）

（一百五十一）

（一百五十二）

（一百五十三）

（一百五十四）

（一百五十五）

（一百五十六）

（一百五十七）

（一百五十八）

（一百五十九）

（一百六十）

（一百六十一）

（一百六十二）

（一百六十三）

（一百六十四）

（一百六十五）

（一百六十六）

（一百六十七）

（一百六十八）

（一百六十九）

（一百七十）

（一百七十一）

（一百七十二）

（一百七十三）

（一百七十四）

（一百七十五）

（一百七十六）

（一百七十七）

（一百七十八）

（一百七十九）

（一百八十）

（一百八十一）

（一百八十二）

（一百八十三）

（一百八十四）

（一百八十五）

（一百八十六）

（一百八十七）

（一百八十八）

（一百八十九）

（一百九十）

（一百二十）

（一百二十一）

（一百二十二）

（一百二十三）

（一百二十四）

（一百二十五）

（一百二十六）

（一百二十七）

（一百二十八）

（一百二十九）

（一百三十）

（一百三十一）

（一百三十二）

（一百三十三）

（一百三十四）

（一百三十五）</

理由、協約第拾弐条ニヨリ露領ニ於テ漁獲又ハ採取シタル

水產物ニ對シ我國ニ於テ何等ノ輸入税ヲ課セサルコトヲ
定メラレタリ今回ハ露領生産物ヲ露國ニ輸入スル場合ノ

公課免除ヲモ規程セラレタキ次第ナリ右ハ追々製品ヲ改

良シ貴重ナル漁獲物ヲ從来ノ如ク日本流ノ塙引ニ製スル

分量ヲ追々減少シ露國向製品ヲ増加セシメンコトヲ期ス
ルタメ此ノ改正ヲ必要トス

七、養殖ヲ謀ル事

理由、前諸項ハ露國ヨリ讓歩ヲ求ムル次第ナルヲ以テ我國
ヨリ讓歩セラルル代償問題トシテ養殖ニ關スル一定ノ設
備ヲ命セラルルコトヲ辭セズ但シ繁殖ノ点ヨリ論スルト
キハ第一ニ露人ノ河川漁業ヲ禁スルノ必要アリ此ノ点ニ
御注意ヲ望ム

(以上)

(二)

大正六年五月要望事項二十六個条

漁業協約改定ニ関スル要望事項(其三)

一、紅魚漁区ニ於テモ雜魚類及魚類分解ノ際生シタル一切
ノ廢棄物ヲ以テ肥料ノ製造ヲナシ得ルコト(前出其一ノ八)

四、一旦開放シタル租借漁区ハ協約ノ存続期間中之レヲ閉 鎖セサルコト(前出其一ノ八)

五、規定ノ陸上地域内ニ於テ建物用敷地又ハ飲料水ニ乏シ
キ時ハ其建網基点左右附近ノ地点ニ於テ借区者ヲシテ任
意撰定セシムルコト(前出其一ノ十)

六拾「サージン」ニ拡張スルコト尚乾場其他ニ必要ナル
紅魚漁区ノ使用地域ヲ海岸延長百五拾「サージン」幅員

場合ニハ隣接地域ノ貸下ヲ許可スルコト

六、地方官憲ト交渉竝ニ漁業用殘留品及魚類ノ運搬等ノ為
漁業用船又ハ漁舟ヲ以テ同一名義ト否トニ不拘適宜ニ何

等ノ制限ヲ受クルコトナク各漁区間ノ交通ヲ許可スルコ
ト(前出其一ノ二)

七、建網ノ構造ヲ制限セサルコト(前出其一ノ十一)

八、掉袋ノ使用機械力ノ應用ヲ制限若ハ禁止セサルコト
(前出其一ノ十三)

九、漁業規則違反者ニ對シ体刑ノ処分ヲ為ササルコト(前
出其一ノ十五)

十、漁業協約第八条第弐項ノ漁業用必要ナル物件ハ直接間
接ナルトコトハス何等ノ制限ヲ加ヘサルコト

十一、借区料金ノ外何等ノ公課金ヲ課セサルコト(前出其
一ノ十六)

十二、河川及入江ハ土民、地方民及移住民(労働者ヲ使用
スルコトナク自ラ漁業ニ從事スルモノ及其家族)ニ貸下

クル部分ノ外露國民ト雖漁業ヲ禁止スルコト(前出其一
ノ十八)

十三、露國政府ハ漁業権ニ關係アル法律命令及規則(附則

二、從來ノ租借漁区ニ於テ蟹、鰐及雜魚ノ漁獲竝製造ヲモ
許可スルコト(前出其一ノ六)

三、漁業協約第弐条第參項ヲ左ノ通改正セラレタキコト (前出其一ノ七)

特別ノ免許状ヲ備フル船舶ニ在ル日本國臣民ハ鰐、蟹、
海鼠、其他特定漁区内ニ於テ捕獲スルコト能ハサル一切
ノ魚類及水產物ノ漁獲ニ從事シ之レカ製造加工ニ必要ナ
ル地区ノ貸下ヲ得竝ニ「トロール」漁業及捕鯨漁業ニ要
スル根拠地ノ貸下ヲ得ル事前記ノ漁類捕獲ニ要スル特別
ノ免許状ハ船舶ヲ特定地へ廻航スル事ナク日本駐在露國
領事ヲシテ發給セシムル事

五 日露漁業協約ノ効力持続及改締一件 三七八

四五六

ト) (前出其ノ一ノ二十八)

二十三、沖合碇泊ノ船舶内ニ於テ魚類ノ船切りヲ許可スル

コト (前出其ノ二十九)

二十四、漁区ノ位置ハ河口ヲ去ル武露里トシ其隣漁区間ノ

距離ヲ武露里トスルコト (前出其ノ三十)

二十五、航海証明書ニ記載セサル場所ニ出漁船舶ヲ碇泊セ

シメタルトキト雖陸上ヘ交通セサルトキハ違約金ノ処分
ヲナササルコト (前出其ノ三十一)

二十六、競売ニ日本領事ヲ立会ハシムルコト (前出其ノ一ノ

三十一)

(以上)

事項六 「力ナダ」ニ於ケル本邦移民排斥関係一件

三七九 一月六日 増原外務次官ヨリ
古賀拓殖局長官宛

力ナダ入国者ニ対スル読書試験免除ニ關シ朝
鮮台灣両總督並関東及樺太庁両長官へ通知方

ノ件

通三送第一号

今般別紙ノ通各地方長官ニ及通牒候間右次第ヲ朝鮮總督、
台灣總督、關東長官及樺太庁長官へ通知方可然御取計相成
度此段申進候也

註 別紙ハ前掲各地方長官宛通三合第一号写ナリ

田中通商局長ヨリ
警視総監各宛

三八〇 一月六日 在ヴァンクーバー浮田領事ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

英領コロンビア州ニ於ケル邦人ノ土地所有反
対運動等ニ鑑ミ我国ノ外国人士地所有法案ノ
成立ヲ切望ノ件

居ル者ニ関スル件

通三合第一号

加奈陀移民法改正ノ結果入國者ニ読書試験ヲ課スルコトト
ナリタル次第八客年六月十一日付通合送第七九〇号ヲ以テ

六 「力ナダ」ニ於ケル本邦移民排斥関係一件 三七九 三八〇

三八一

及御通知置候處右読書試験ハ左記ノ者ニ対シテハ免除セラ
レ居ルニ付御承知相成度此段申進候也

左 記

(一)再渡航者

(二)十五歳以下ノ者

(三)呼寄又ハ同伴ニ係ル父若クハ祖父 (但五十五歳以上ノ者
ニ限ル)、妻、母、祖母又ハ未婚若ハ夫ニ死別レタル娘

(四)単ニ加奈陀ヲ通過スル者

三八一 一月十六日 在ヴァンクーバー浮田領事ヨリ

英領コロンビア州ニ於ケル邦人ノ土地所有反
対運動等ニ鑑ミ我国ノ外国人士地所有法案ノ
成立ヲ切望ノ件

第三号 (一月十八日接受)

外国人土地所有法案当期帝国議会ニ提出セラル趣仄聞セ
ルガ近時當州政治季節ニ迫リ排日的論議漸ク緊張ノ徵アリ
就中邦人ノ土地所有及借地反対運動各所ニ行ハレ「オタ

四五七